

Q & A 患者さんからの質問箱

透析困難症

Q1 血液透析中に血圧が下がることが多く、透析を途中で中断することもあります。主治医からは透析困難症と言われています。このような辛い透析を続けていくことは耐えられそうもありません。何か良い方法はないでしょうか。(82歳、女性、透析歴8年)

A1 透析困難症とは、血液透析（HD）中に、血圧の低下とともに、動悸、気分不良、冷汗、胸痛、意識消失などが出現し、治療中にもかかわらず血液透析の継続が困難になる病態のことです。原因は、年齢、原疾患、合併症などにより異なり、不均衡症候群、透析低血圧、透析器材の生体不適合、透析に対する心因反応（不安、抑うつ）などがありますが、この方の場合は、透析低血圧による透析困難症と考えられます。

対応策としては、まず目標体重（ドライウエイト）の確認です。ドライウエイトは、血圧、心胸比、心臓超音波などを総合して、患者さんの状態に合わせて適切に設定されることが必要になります。また、高齢者や糖尿病患者では、心機能低下、自律神経機能不全、動脈硬化、末梢血管抵抗の反応性低下などにより、透析中に低血圧をきたしやすくなります。そのため、透析間の体重増加を少なくし（ドライウエイトの5%以内）、時間当たりの除水量を減少させることは、透析中の低血圧のみならず心不全の発症予防になります。

限外濾過（透析膜に加えた圧力差によって

体液を透析液側に除去すること）によって過剰な水分を除去する血液濾過法（HF）や、血液透析濾過（HDF）などの血液透析以外の血液浄化法の選択、容積量の小さいダイアライザの使用、長時間透析などにより、透析困難症の発症をある程度抑えることが可能です。また、高血圧症を合併し降圧薬を服用している場合には、透析開始日の朝は、降圧薬を減らしたり、増やしたりする工夫がなされています。

透析時の低血圧に対する薬剤治療としては、アマジニウムメチル硫酸塩（リズミック®）、ミドドリン塩酸塩（メトリジン®）、ドロキシドパ（ドプス®）、エチレフリン塩酸塩（エホチール®）などの昇圧薬の内服や、強心薬の一種であるカテコールアミン系薬剤の透析中の点滴があります。薬剤については、合併症などにより使用可能な薬剤が限られますので、主治医の医学的判断が重要になります。

どのような方法によっても管理不可能な透析困難症においては、腹膜透析（PD）に変更することも選択肢の一つになりますので、主治医にご相談ください。

（平松 信／岡山済生会総合病院・医師）